

平成二十四年度

(手話通訳学科) 入学試験問題

国語

注意 問題は二頁～十二頁に印刷されている。
解答は解答用紙の所定欄に記入すること。

第一問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

アメリカの憲法学者ローレンス・レッシング (Lawrence Lesig) は、情報化社会における権力のあり方を論じた著書『CODE』において、我々を規制する手段に法・市場・社会規範・アーキテクチャという四つのモードがあると分析した。

たとえばいま、ホームレスが地下街の通路で寝るのをやめさせたいとしよう。我々はもちろん法によってそれを禁じたり、それはよくないことだと社会規範に訴えて説得することができると。地下街という公共の空間の価格を操作することはできないが、ダイ(ア)タイ財である安アパートや簡易宿泊所の価格を引き下げることができれば、aに地下街で寝る人は減ることだろう。財の価格や供給水準を決める市場のあり方によって、人々の行動は左右される。

これに対し、たとえば妙な突起物を設置していくことによって、寝ころぶことのできる隙間をbになくしていくとすれば、それがアーキテクチャによる支配である。レッシングは「社会生活の」bにつくられた環境』をアーキテクチャと呼んでいる。我々がその内部で行為を行なう空間のあり方それ自体に操作を加えることによって、我々の行動をコントロールすることが可能になるのだ。

もちろん先ほどの地下街の例は、架空のものではない。新宿駅の西口から都庁に向かう地下通路の目立たない部分、周囲から引つ込んで人々の通行しにくい部分、言い換えればホームレスたちが通行人に邪魔されることなく寝転がれるような部分には、青島都知事時代の一九九六年、オブジェと称する奇態な出っ張りが設置された。斜めに切り取られた先端は、ホームレスをその領域から完全に排除することを狙っている。通路の反対側、動く歩道とのあいだに設けられたフェンスも、歩道とのあいだを仕切るだけでなく、一定の面積が確保されることを妨害しようとしているのだろう。

自然法則は誰かが決めたものではないから、我々が空を飛べないことは自由に対する制約ではないと、リバタリアンは言ったのだった。だが法則それ自体はそうだとしても、それが働く環境自体を操作することによって我々が何かをする可能性があらかじめ奪われているとすれば、それもまた自由の侵害にはあたらない、のだろうか。

このような権力をイ(ク)シしようとする主体は決して国家や地方自治体に限定されるわけではない。二〇〇五年に開港した中部国際空港・出発ロビーのベンチは、合間合間に挟まれたひじ掛けによって、座席部分が三つ連続しないようになっていて。おそらくこれは、ベンチを占拠して寝ころぶ旅行者が出ないようにするための空港会社による工夫だろう。

あるいは、二〇〇六年に発覚した東横イン不正改造問題を想起しよう。ハートビル法(高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律、平成六年法律四四号)によって公共性の高い建築物に設置が義務付けられていた設備を、検査が終わった後で不正に撤去したり改造して客室に転用したなどの不正がcに行なわれた事件である。特別な対応を必要とする身体障害者をウ(コ)キヤクから排除するための一つの簡単な方法は、障害者がホテルに入ってくる可能性を物理的に消去することだ。ロビーの床から視覚障害者のための点字ブロックを撤去するという対応を、Aアーキテクチャ的支配の観点から理解する必要があるのではないか。

レッシング自身は、コンピュータ・ネットワーク上で可能となる振る舞いがさまざまなプ

ログラムによって決定されていること、そのプログラムによって実現されるアーキテクチャは、従って、そのプログラムを作り出した「誰か」によって決められているということ
を主要な問題として考えている。「一九世紀半ばに自由を脅かしていたのが規範で、二〇世紀頭にはそれが国家の力で、二〇世紀半ばのかなりの部分で自由を脅かしたのが市場だったなら、わたしの議論というのは、二〇世紀末から二一世紀にかけて別の規制手段——コード——こそが懸念となることを理解すべきだということだ」(レッシング)。プログラムのコードを書くものが二十一世紀の権力者になると、彼は恐れている。

だがすでに挙げた例からもわかるとおり、アーキテクチャの操作はネットワークの中でしかできないというわけではない。我々が生きている普通の空間においても、それは利用され得る。だが、B そのアーキテクチャの権力のどこが特別なのだろうか。

レッシングが注目するのは、規制手段への意識を必要とするか否かという点である。法や規範の場合、それに違反したものに制裁が加えられることによって規制は d に機能する。地下街で寝たホームレスは刑事罰を受けることになるかもしれないし、人々に指さして笑われることによってある種の共同体的な制裁を受けることになるかもしれない(ここではそんな規制内容・規制手段を E サイヨウしてよいかという問題は度外視しておこう)。もちろん我々は制裁があることを予想し、それを回避しようとするから、これらの規制の存在によって特定の行為を思いとどまる可能性はある。だがそのためには X。

ところがアーキテクチャは、そのような意識を必要としない。「鍵は、鍵がドアをブロックしているのを泥棒が知らなくても、泥棒を制約する」(レッシング)。アーキテクチャの権力は、我々がそれに気付くことなく、Y。法律や規範に対して何の知識も持たない存在も、アーキテクチャに従わせることはできる。いやそれどころか、人格なき存在であっても支配の対象にできることは、鍵のかかったドアの内側には誰も——人間だけでなく犬や猫も入れなくなることを考えればわかるだろう。アーキテクチャの権力は「個人」を必要としない。

我々は知らないうちに、ある一定の行為可能性の枠の内側に閉じこめられているのかもしれない。その枠の内側では我々の行為選択に制約を加えるものはなく、我々は完全な消極的自由を F キョウジュできるとしよう。だがこれは本当に自由なのだろうか？ もし我々がその制約の存在を知っていたとして、それでもなお我々の選択はどのような制約がない場合と同じだと知ることができるだろうか。我々は迷路に閉じこめられたマウスと、どこがどのくらい違うのだろうか？

アーキテクチャは我々の生活を制約する。そうであるならば、法や規範に制約される我々がその善悪良否を論じ、何を受け入れ何を拒絶するかを決定しなくてはならないように、コードについても我々が決定しなくてはならないのではないだろうか。何が「社会規範」であるかは、その社会を形作っている我々自身が決めていくことだろう。政府がそれを通じて我々を支配する「法」は、人民が選挙を通じてその政府を支配することによって、我々自身のコントロール下にあると想定されている。だがアーキテクチャの権力に対して、それを形作るコードに対して、我々自身には何ができるのだろうか？

問題は、そこにおける支配が我々の支配されているという意識を必要とせず、我々はそこで「怒らせ、狂乱させ」(ルソー)られはしないかもしれないという点にある。アーキテクチャを主体の視点から見ると、自分がある特定の行動に追い込む・そうせざるを得

なくするシステムを誰か自分以外のものが作っているということになるはずだ。だがそれに主体が気付くことなしに従わされてしまう、そのような支配のあり方が登場するというのが、レッシングの分析に潜んでいる真の問題なのである。

(大屋雄裕「自由とは何か」)

問一 傍線部(ア)～(オ)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) ダイタイ

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|------------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 理想をタイゲンする | タイグウが悪い | タイサクを練る | タイクツな話 | 乗務員がコウタイする |

(イ) クシ

- | | | | | |
|--------------|---------|--------|-------------|-----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 論すようなクチョウで話す | ケイクを発する | サイクを施す | 悪貨は良貨をクチクする | クシンして仕上げる |

(ウ) コキヤク

- | | | | | |
|----------|-------------|------------|---------|-----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ショウコを調べる | 事件をコチョウして言う | 幼いころをカイコする | 受賞をコジする | エンコを頼りにする |

(エ) サイヨウ

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------|--------|----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 法案をサイケツする | サイガイに見舞われる | ケツサイをすませる | イサイを放つ | 花をサイバイする |

(オ) キョウジュ

- | | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| カッキョウを呈する | 労力をテイキョウする | 哲学にキョウミをもつ | 人生をキョウラクする | キョウテイを結ぶ |

問二 空欄 a 〽 d (b は二つある) を補うのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものをくりかえし選んではならない。

- ① 組織的 ② 物理的 ③ 事後的 ④ 結果的 ⑤ 必然的

問三 空欄 X を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 我々自身が定めた規制だという自覚を持たねばならない
② 我々の違法行為に対する処罰はこつそり行わなければならない
③ 我々がその規制に気づかないように、それを隠さなければならない
④ 我々が制裁を恐れるように、制裁を厳しくしなければならぬ
⑤ 我々がその規制を認識し、理解していなくてはならない

問四 空欄 Y を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 我々の違法行為を、後からこつそりと処罰する
② 我々の行為に先立って事前に、我々の行為を制約する
③ 我々の警戒意識の裏をかくて、我々の行為を制約する
④ 知らないうちに法に従うように、我々の行為を誘導する
⑤ 規範に反する行為をしてしまうように、我々を追い込む

問五 傍線部 A 「アーキテクチャ的支配」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 環境を一定のコードのもとに管理することによって、人々が法を犯さないようにその行動を規制すること。
② 空間をプログラム通りに改造することによって、特定の人々を社会全体から排除するように仕組むこと。
③ 環境に故意に手を加えることによって、人々の行動が均一化するようにコントロールすること。
④ 環境自体を操作することによって、人々の行為を一定の可能性の枠の中に閉じ込めてしまうこと。
⑤ 空間のあり方自体に操作を加えることによって、人々が特定の行為を自制するように仕向けること。

問六 傍線部B「そのアーキテクチャの権力のどこが特別なのだろうか」とあるが、「どこが特別」なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 人々に支配されているという意識を持たせずに、人々の行動を支配するところ。
- ② 人々が規範に従わざるを得なくなるように、人々の行動を支配するところ。
- ③ 人々が違反行為を自粛せざるを得なくなるように、人々の行動を支配するところ。

- ④ 人々が人格を喪失して体制に従順になるように、人々の行動を支配するところ。
- ⑤ 人々に自分は自由だと思わせておきながら、人々の行動を支配するところ。

問七 本文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。

- ① 二十一世紀になって我々の行動を規制する手段はもはや法や規範ではなくなり、アーキテクチャに代わった。
- ② 自然の法則によつて我々人間は空を飛ぶことができないが、それも自由に対する制約だと認めるべきである。
- ③ アーキテクチャの権力が問題なのは、それを振るうのが公的な機関よりもむしろ民間の企業だからである。
- ④ アーキテクチャの権力は、それを行使するにあたって人間の知識や人格といったものは問題にすることはない。
- ⑤ アーキテクチャの操作はネット上で行われる限り問題はないが、それが現実の空間で行われるのは問題である。
- ⑥ アーキテクチャは法や規範とは異なり、制約を受ける我々自身がその決定に関与することはできない。

第二問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日本に日本近代文学が存在するようになったこと。それは、日本に、日本語で〈学問〉ができる〈大学〉が存在するようになったという事実ぬきには考えられない。日本近代文学が生まれて大きく花ひらくのに、いかに〈大学〉が大きな役割を果たしたことか。そして、その事実が、時を経るに従い、いかに知らず知らずのうちに隠蔽されてきたことであろうか。

ふたたび、「もし」という仮定形の質問に戻る。もし、日本がアメリカの植民地になっていたら、どうなっていたか？ たぶん、私たちが今知っているような日本の大学は存在しえなかったであろう。植民地政府に選抜された優秀な人材や、^アユウフクな家庭の子弟はアメリカの大学に留学することになったであろうし、もし日本に大学が作られたとしても、授業は英語で教えられるようになったであろう。（事実、台湾や朝鮮を植民地化した日本は台湾や朝鮮に日本語の大学を作った。）

ところが、植民地になる運命を逃れた日本は自前で大学を作ることになった。（婦女子の高等教育は最初はキリスト教の伝道者に任せた。）西洋の建築をまねた煉瓦造りの建物をあちこちに建て、西洋から革表紙の書物を山のように買いこんだのである。建物はできても学生を教えられる教師はおらず、そのあとしばらくは、大臣より高い給料で「お雇い外人」を雇っていたが、それはその場凌ぎのことではない。やがて西洋に留学した日本人が戻ってくると、「お雇い外人」を解雇して、代わりにそれらの日本人を教師として雇っていた。

「お雇い外人」を解雇して、代わりに日本人の教師を雇っていったという動き。それは、日本にとつても日本語にとつてもこの上なく重要な動きであった。そのとき初めて日本は〈自分たちの言葉〉で〈学問〉ができるようになったのである。日本語が、〈大学〉という公的な場で、その言葉でもって〈学問〉ができる〈国語〉という地位を公的に得たのであった。

〈国民国家〉が成立するときには、まるで魔法のように、その歴史的な過程を一身に象徴する国民作家が現れる。

日本では、漱石がそうである。

イギリスに留学して戻ってきた漱石が、ラフカディオ・ハーンの後任として、東京帝国大学文科で英文学講師という地位を得たのは、まさに、日本の大学において、日本語で学問がなされるようになった過程を象徴するできごとであった。しかも漱石は、日本の大学で日本語で学問ができるようになったことの意味——そして「無意味」——をそのまま象徴する。

なぜなら、^A日本の大学で日本語で学問ができるようになったとはどういうことか。日本の大学が西洋の大学と同じような意味での学問の府となったということであろうか。もちろんちがう。日本語で学問ができるようになったということは、何よりもまず、日本の大学が、大きな翻訳機関、そして翻訳者養成所として機能するようになったことを意味したのであった。近代日本を特徴づける知識人——^P知識人。日本語で学問ができるようになったとは、日本の大学が、近代日本を特徴づけるそのような知識人を、世に大量に送り出していくようになったのを、何よりもまず意味した。

明治から第二次世界大戦前までは、まだ西洋の主要な三つの〈国語〉が〈普遍語〉として流通していたころである。日本の旧制高等学校や大学の主な役割は、英語、フランス語、ドイツ語という〈三大国語〉を教え、二重言語者を翻訳者として育てることにあった。日本近代文学のあちこちに、貧乏青年がお金のために、一枚、二枚と、青いインク染みを指に、^(イ) テツヤして翻訳の仕事をこなす瀬せ姿がいかにヒン^(ロ)パンに出てくることか。あるいは、今や急速に死に絶えつつある元旧制高等学校生だった男たちの会話。「キミも英語だったのか」「いや、僕はフランス語だった」「そうか、そしたらアイツはドイツ語かな」。このような会話は、いかに日本の大学が〈三大国語〉を教えるのを中心に成り立ってきたかを物語るものである。

そして、重要なのは——世界的にみても重要なのは、このような非西洋の二重言語者である日本人が、西洋語という〈普遍語〉をよく読みながらも、〈普遍語〉では書かず、日本語という〈国語〉で書いたという点にある。それによって、かれらは翻訳を通じて新しい〈自分たちの言葉〉としての日本語を生んでいった。そして、その新しい日本語こそが〈国語〉——同時代の世界の人々と同じ認識を共有して読み書きする、〈世界性〉をもった〈国語〉へとなっていたのであった。

そしてその〈国語〉こそが、日本近代文学を可能にしたのであった。

明治の時代に、大学へ行き、西洋語に親しんだ人たちが読み書きした〈国語〉。それは、巷で流通している日本の〈書き言葉〉とは、どこか異質なものであったであろう。思うに大正時代に入ってから、かれらの読み書きする〈国語〉は、巷の人にとっては、どこか^x バタ臭い匂いのする言葉、箸の代わりにナイフ、フォークで食事でもしているような言葉、疎外感の対象にもなれば^a の対象にもなる言葉だったのではないだろうか。新聞が文語体から言文一致体に変ったのは大正八、九年のことで、その動き自体^b 的な意図をもつものであった。そのような〈国語〉が義務教育、そしてまさに新聞や雑誌を通じて、百姓や工員やタバコ屋の娘など、大学とは無縁の生活を送る人々にとって真にありまえのものとなったのは、昭和も大分入ったころからではないだろうか。

貧乏と女——しかも、女でも、ことに娼婦の類いを知ることが優れた小説家の条件だというのは、一時代前、男の小説家や批評家がよく言ったことである。要するに、小説家は学問の府たる^y 象牙の塔から遠く離れて書くべきだということである。なんと、文学的、あまりに文学的な、思いこみであろうか。なんと〈国民文学〉の^c ——〈国民文学〉は国民の魂そのものを表現したものであるという、〈国民文学〉の^c に囚われた思いこみであろうか。そのような思いこみは、すでに「日本語」や「日本近代文学」の存在を自明のものとしているからであり、近代に入ってからの世界の歴史を顧みれば、世間知らずの坊っちゃんのことではない。

日本に近代文学があるのを可能にした条件は日本に〈国語〉があったことにあり、日本に〈国語〉があるのを可能にした条件は日本に大学があったことにあり、日本に大学があるのを可能にした条件は、まさに日本が西洋列強の植民地になる運命を免れたことにあった。

たとえばダニエル・デフォー。小説の^(エ) センク者の一人とされるイギリス人で十八世紀初頭に書いた。当時、〈普遍語〉のひとつである英語で書いていたかれは、小説のセンク者の一人となるために、オクスフォード大学やケンブリッジ大学を出ていする必要はなかった。

だが、非西洋圏にある日本での事情はまったくちがう。日本近代文学の d 期の作家たちを思い浮かべたとき、日本の最高学府である東京帝国大学に在籍した人の数は、凄まじい。凄まじいを通り越して、異様である。東京大学予備門も含めると、漱石、鴎外はもちろんのこと、十九世紀に生まれた作家たちの名を挙げれば、坪内逍遙、正岡子規、山田美妙、尾崎紅葉、上田敏、小山内薫、鈴木三重吉、斎藤茂吉、志賀直哉、武者小路実篤、中勘助、木下杢太郎、谷崎潤一郎、山本有三、内田百閒、岸田国士、久米正雄、芥川龍之介、大佛次郎、川端康成等々、切りがない。さらに、慶応大学には三田文学、早稲田大学には早稲田文学、学習院には白樺派文学がある。日本ではいかに翻訳者養成所である大学を中心に近代文学が発展していったかを物語るものである。

そもそも、日本初の近代小説だとされる『浮雲』を書いたのは、東京外国語学校で授業のすべてをロシア語で受け、ロシア人教師の朗読を通じてロシア文学をものにしていったという二葉亭四迷である。そして、明治初期、文学の翻訳といえば、日本の読者向けに原文を ^(外)ジザイに変えた「翻案」しかなかったところに、ツルゲーネフの『あひゞき』の翻訳を著し、初めて文学の翻訳たるものの意味——それが、一語一句正確に訳し、かつ感動を与えねばならないのを世に知らしめたのも、その二葉亭四迷である。B 日本初の近代小説を書いた人物が、日本初の小説の翻訳家であったのは、偶然であるよりも必然であった。

（水村美苗「日本語が亡びるとき」）

問一 傍線部(ア)～(オ)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) ユウフク
① ユウゼンと構える
② ユウガな生活を送る
③ ガイユウの途につく
④ 前途をユウリヨする
⑤ 時間にヨユウがない

(イ) テツヤ
① 赤字路線をテツパイする
② 大臣をコウテツする
③ 初志をカンテツする
④ センテツの教え
⑤ テツケンが飛ぶ

(ウ) ヒンパン
① 国がハンエイする
② 本をシュツパンする
③ 自動ハンバイ機
④ 川がハンランする
⑤ 真相がハンメイする

(エ) センク
① 悪にカンセンする
② 研究にセンネンする
③ センパクな知識
④ 他国をセンリョウする
⑤ キセンを制する

(オ) ジザイ
① ブジを析る
② 妥協案をテイジする
③ 現状をイジする
④ ジメイの理
⑤ ゾクジに入りやすい

問二 空欄 a d c は二つあるを補うのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものをくりかえし選んではならない。

- ① 逆説 ② 啓蒙 ③ 憧憬 ④ 神話 ⑤ 黎明

問三 傍線部 x・y の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

- x バタ臭い
- | | |
|---|----------|
| ① | 不自然な |
| ② | 西洋風の |
| ③ | 洗練されていない |
| ④ | 未熟な |
| ⑤ | 怪しい |

- y 象牙の塔
- | | |
|---|-----------------|
| ① | 海外の情報を紹介する翻訳機関 |
| ② | 有能な人材を輩出する教育機関 |
| ③ | 真理の探究に従事する研究生生活 |
| ④ | 文明の発展に貢献する研究機関 |
| ⑤ | 現実から遊離した学生生活 |

問四 空欄 P を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 大学へ行き西洋語に親しむことで、庶民との断絶感を覚える
- ② 大学から遠く離れたところでしか優れた近代小説は書けないと考える
- ③ 西洋語で読みながら、西洋語では書かずに日本語という国語で書く
- ④ 普遍語として流通している西洋の主要な三つの国語を同時に習得した
- ⑤ 日本では大学に行かないと優れた近代小説家にはなれないと考える

問五 傍線部 A「日本の大学で日本語で学問ができるようになった」とあるが、筆者はその根本的な理由をどういうことに見いだしているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本が西洋列強の植民地になる運命を免れたこと。
- ② お雇い外国人を解雇して、西洋留学から戻ってきた日本人を教師として雇ったこと。
- ③ 西洋語の翻訳を通して世界性をもった新しい日本語を生み出したこと。
- ④ 日本では大学が翻訳者養成所としての役割を果たしたこと。
- ⑤ 日本では大学に行って西洋語を学ばないと、優れた近代小説家にはなれなかったこと。

問六 傍線部B「日本初の近代小説を書いた人物が、日本初の小説の翻訳家であったのは、偶然であるよりも必然であつた」とあるが、このように言えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本の作家たちは西洋語の翻訳を通して近代的な考え方を学んだが、そのことで日本の近代文学が可能になったから。
- ② 日本の作家たちは翻訳を通して日本語と西洋語の違いを認識したが、そのことが日本固有の近代文学を可能にしたから。
- ③ 明治初期の翻訳は原文を日本の読者向けに変更した翻案であつたが、この翻案こそが日本の近代文学を可能にしたから。
- ④ 日本の作家たちは西洋の近代小説の翻訳を通してその手法を習得したが、そのことで日本の近代文学が可能になったから。
- ⑤ 西洋語の翻訳を通して新しい日本語としての国語が生まれ、その国語こそが日本独自の近代文学を可能にしたから。

問七 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本の作家たちは、日本の近代文学が大学という翻訳者養成所なしには生まれなかったという事実を、故意に隠蔽しようとしてきた。
- ② 漱石が国民作家と言われるのは、国民国家の成立過程を一身に象徴すると同時に、国民の精神そのものを表現した作家だからである。
- ③ 日本で近代文学が確立されたと言えるのは、義務教育や新聞、雑誌などを通して言文一致体が一般の庶民にまで浸透したときである。
- ④ 西洋の近代作家が日本の近代作家と違って大学に行く必要がなかったのは、近代文学を可能にする国語がすでに成立していたからである。
- ⑤ 二葉亭四迷が日本で初めて近代小説を書くことができたのは、彼が習得した外国語が三大国語ではなく、ロシア語だったからである。

国語

△解答例▽

受験番号

氏名

二			一		
問一 (ア)	問二 a	問三	問一 (ア)	問二 a	問三
⑤	③	⑤	①	④	⑤
(イ)	b	問四	(イ)	b	問四
③	②	②	②	②	②
(ウ)	c	問五	(ウ)	c	問五
①	④	④	③	①	④
(エ)	d	問六	(エ)	d	問六
⑤	⑤	①	⑤	③	③
(オ)	問三 x	問七	(オ)	問三 y	問七
④	②	④	②	⑤	④
					⑥

合 計

--	--	--